

鹿児島県柔道会だより

■発行人/北 哲郎 ■編集/総務部編集委員会 ■発行/財団法人鹿児島県柔道会(電話 099-222-7770)

平成20年度の努力目標

会長 北 哲郎



1 柔道を通じた人間教育

嘉納治五郎師範の理想とする柔道を通じた人づくりのために、柔道の指導を通して、自己の行動に責任を持ち他人に対して感謝と思いやりの心を持った「心豊かな人づくり」に学校・家庭・社会が一丸となって取り組む必要があります。

教育柔道の普及発展のために、指導者は、柔道の教育的、精神的、体育的、価値観の教育と各種大会講習会等を活用し、教育の原点である薩摩の郷中教育の徹底を図る必要がある。

2 「武の国薩摩」復活を目指した競技力向上指導体制の確立

① 少年柔道

県内各地域の既存の道場・クラブ等の指導者育成のために、地域在住の柔道高段者、指導者への積極的働きかけ、参加し易い環境作りが必要。人間教育の基本は家庭。少年柔道の指導者は、学校教育後の家庭の教育力を失っている。これを再生する心構えと気骨が必要である。それだけ価値観があることを自覚して取り組んでもらいたい。

② 中学校柔道

現在、強化練習も定着し、競技力向上も一応の成果を得た。今後は、指導者の資質向上と強化練習の内容の充実を希望しています

指導者(教員)の適正な配置も必要で、県柔道会は、県教育委員会へ柔道指導者の適正な配置の要請を継続します。

最も大事なことは、中学校の優秀選手の県外への流失を防止することです。

③ 高等学校柔道

指導体制の確立、相互協力体制が必要。国体強化については、強化練習の在り方を工夫し、指導者や選手がそれぞれの学校の枠を離れ、県の代表選手としての自覚を持ち、一丸となって取り組む強化練習にして欲しい。

中学校優秀選手の県外流失防止の責任は、高等学校の柔道指導者にもある。魅力ある優れた人間性と責任ある態度・指導力が必要である。

④ 一般柔道

県警機動隊、刑務所、各大学、教員、各職域等年間を通じた合同練習会。それに高等学校を含めた強化練習。お互いの連携が必要である。

3 登録の推進

- ① 柔道人口の増大を目指した活動。
- ② 柔道会役員の登録の確認。
- ③ 高段者の推薦と昇段後の登録継続の確約。

4 広報活動

- ① 報道機関への積極的な情報発信。
- ② 「柔道会だより」の内容の充実と配布先の拡充。

平成20年度役員の一部変更

	(新)	(旧)
事務局長	木本 洋一	宇都 克洋
強化部長	北薊 季康	山崎 逸郎
登録部長	田中 総一	木本 洋一
評議員	吉村 智之	西 淳一
評議員	福山 研朗	太利 憲吾

「柔道指導者講習会」報告

「県下中学校・高等学校における教科体育、部活動及びスポーツ少年団等の柔道指導者の指導力を高め、本県柔道競技の競技力向上を図る。」という趣旨のもとで県総合体育センターとの共催により31回目の柔道指導者講習会が、5月15日と16日の2日間にわたって県武道館で145人が参加して開催されました。

1日目は、午前中に「柔道指導者に期待すること」という演題で県柔道会北哲郎会長の講話がありました。内容は、①薩摩藩の「郷中教育」と会津藩の「辺の教育」②柔道を通じた人間教育③「武の国薩摩」復活を目指した競技力の向上④「柔道を通じての人間教育・柔道ルネッサンス」で、会長のこれまでの豊富な柔道指導歴や柔道の知識深い人生観に裏打ちされた講話で、受講者に深い感銘を与えた。

午後からは、「講道館審判講習会」があり、「国際柔道連盟試合審判規定」と「講道館柔道試合審判規定」について、講師は、講道館から派遣された警察大学校教授松井勲氏。最新の規定解釈があり、受講者は、場内外の解釈に少々不安を持ちながらも終了した。

2日目は、午前中の前半に「投の形」の実技があり、県警察本部教養課の田中総一氏の指導で、「投の形」の実技に熱心に取り組んだ。

午前中の後半は、演習「理論と実践」があり、新日本製鉄南九州営業所長の鮫島俊隆氏が、自分の得意技（立ち技・寝技）を紹介された。受講者は、技の凄さに感心していた。

午後からは、前半に、実技Ⅱ「固の形」鹿児島中央警察署福元雅一氏、実技Ⅲ「指導法」鹿児島南高等学校吉村智之氏の指導があった後半に、実技Ⅳ「審判法」・「高段者試合」があり、県警察本部教養課北園季康術科師範が、模擬試合に審判が3人付き、審判のゼスチャーや審判旗の扱い方、審判員の最初と最後の礼儀作法などについてのきめ細かな指導がなされた。受講者は、講習会の内容に満足した表情で帰路についた。

(支部だより 4)

「始良地区における柔道人口の底辺拡大と青少年の健全育成を目指して」

始良支部長 小妻 幸造

始良支部の活動を紹介する機会を頂きましたので、支部活動の方針や理念を述べながら、1 支部の組織について、2 支部の年間活動について、3 少年団・中体連・高体連の活動について、4 大会の開催について報告いたします。

1 支部の組織について

役員は、支部長1名、副支部長2名、顧問2名、監事1名、理事長1名、事務局長1名、常務理事2名、理事11名の合計21名によって構成されています。

これらの役員には、それぞれの役目があります。理事長は、支部会員のまとめ役、事務局長は、県柔道会との連絡調整や支部全般の運営をつかさどります。常務理事は、中体連の担当1名と支部で開催する柔道大会の運営担当1名の2名がいます。高体連は、副支部長が担当しています。理事は、各少年団の指導や取りまとめを行なう担当と職場（自衛隊、刑務所、警察）や第一工業大学の担当。また、柔道整復師会の理事もいて、自分の担当分野については、責任を持って遂行する体制が整いつつあります。

現在の団体及び競技者登録状況は、指導者登録69名、団体登録は、一般3団体、大学1団体、高等学校7校、中学校8校、スポーツ少年団6団体。小・中・高等学校、一般の競技者登録数は、339名です。

始良支部においては、10年程前から支部の発展のためには、支部組織の確立が重要であると考え、支部組織づくりに重点を置きましたが、近年その成果が出てきたと考えています。

2 支部の年間活動について

支部の年間活動について、主なものを紹

介します。

- ① 支部合同鏡開き及び稽古納め
- ② 形の講習会と昇段試験(年2回)
- ③ 支部合同昇級試験と勝ち抜き大会
(少年団年2回)
- ④ 始良地区体育大会(兼県体選手選考)
- ⑤ 県民体育大会(19年度は、準優勝)
- ⑥ 地区防犯柔道大会(霧島署と共催)
- ⑦ 国分縄文旗柔道大会
- ⑧ 新年会、忘年会

上記の他、平成19年2月には、全九州自衛隊柔道大会があり、支部会員の中から役員、審判員、選手として多くの者が参加しました。

3 少年団、中体連、高体連の活動について

① 少年団の活動

支部内には、少年団が、6団体あります。日々の活動は、それぞれ各自で行なっていますが、年に4回程度支部としての合同練習を行なっています。1月と12月は、鏡開きと稽古納めを兼ねて行なっています。6少年団は、それぞれの特徴を持っていますので、お互いの特徴を出しながら合同で練習することは、団員の交流と技の研鑽に大いに役立ちます。この鏡開きと稽古納めに中学生も参加しているので、さらにその成果が期待できます。

また、少年団の中には、始良柔道スポーツ少年団のように独自の大会や成人祝いの会を開催しているところもあります。

② 中体連・高体連の活動

中体連においては、月1回を目処に(19年度実績9回)始良地区中学校の合同練習を行なっています。この時には、不定期ですが、高校生も参加して合同練習を行なっています。

確かに、中学生と高校生には力の差はありますが、経験をつむことで、得る物が大きいと考えています。

また、中体連・高体連大会への審判の相互支援や高校生の支部開催大会への運営協力など、中・高校間の連携が構築されつつあります。中・高校の監督や先生方の熱心な指導に感謝しています。なおまた、これ

らの連携が可能になったのは、支部組織の確立の効果とも考えています。

4 大会開催について

① 始良地区防犯柔道大会

主催は、始良支部国分柔道会ですが、霧島地区防犯協会、霧島警察署と合同で大会運営を行ないます。

② 国分縄文旗柔道大会

平成9年に国分上野原において、9500年前の縄文遺跡が発掘されました。これを機に、それまで「桜祭り大会」と呼んでいたものを「国分縄文旗柔道大会」と大会の名称をかえ、青少年の健全育成とより一層の技術力向上を図ることを目的として開催することにしました。

今年度も4月13日に第11回大会を終えましたが、参加チーム数は、中学校男子43チーム、女子17チームの48中学校。小学校70チームの30団体(A・B2チームの出場は、出来ません。)。出場者数は、団体戦535名、個人戦354名。役員・運営委員数104名でした。

参加チームの中には、遠く宮崎県延岡市や宮崎市、県内においては、中種子町からの参加もありました。

また、毎年県柔道会から役員の出席を頂いています。感謝しております。

5 終りに

私たち始良支部指導者の柔道指導における共通認識は、子供たちのそれぞれの発達段階に応じた柔道を指導するという事です。

小学校で学ぶべきこと、中学校で必要なこと、高校生でやるべきこと。そして、柔道を通して一生涯礼節を重んじ、「精力善用」・「自他共栄」の精神を持った社会に貢献する人材を育てること。このことこそが、最も大切な指導理念であると考えています。

地区内における更なる柔道人口の底辺拡大を目指し、柔道発展のためにより一層努力したいと考えておりますので、今後とも県柔道会をはじめ各地区支部の皆様のご御指

導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

強化委員長を拝命して

強化委員長 北 蘭 季 康

本年の4月1日付けで鹿児島県警察本部刑務部教養課術科師範として就任しました。と同時に、警察手帳・制服を返納して、肩の荷が下りたような気もしますが、その反面、術科師範としての大きな荷物を抱え、これから先の術科(柔道)強化の重要性を強く感じているところです。

また、今年の県柔道会総会で一部の役員改選により県柔道会北哲郎会長から、強化委員長の重要ポストを命ぜられ、気の引き締まる思いと私で大丈夫だろうかという不安とが交錯しました。でも平成20年度の国体強化練習は、4月12日から始まっており躊躇している時間はありません。頑張るしかありません。

私が強化方策として以前から考えていたことは、基本的に3つあります。

第一は、いかに練習するかである。時間の確保とどれだけ汗を流すかであります。

第二は、人の管理で、各所属の監督・選手を纏め、国体に向けて心一つにして九州ブロック大会を乗り切り、本番の国体で点数をどれだけ獲得できるかであります。

第三は、現在の小・中学生の強化である。この将来のジュニアをいかに鍛え本県で活躍させるか。他県に引き抜かれない対策を講じることが大切であります。

まだこれ以外にも強化方策はあると思いますが、以上三つのことを核にして、国体へ向けての強化を進めてまいります。

私は、微力ではありますが一生懸命努力し、県柔道会発展のために頑張る所存であります

(道場だより 1)

「修道館」の歩みと活動状況

1 歴史

修道館は、大正13年に林岩三が、鹿児

島市東千石町の現在地の隣地辺りに創設し、昭和19年まで、多くの人材を輩出しました詳細は、【鹿児島県柔道史】の235頁「各道場の歩み」に記載されています。

昭和20年から修道館柔道場は、中断されていましたが、林整骨院を後継ぎした林岩男が、地域の青少年の健全育成と柔道の発展を願い、昭和50年5月に現在地に新家屋を建築するのを機に、1階を整骨院治療所、2階を少年柔道場(49畳)とし、修道館を再出発し、現在に至っています。

2 理念

柔道を通じて、少年少女の心身の健全育成を図り、柔道の理念である「精力善用・自他共栄」を理解し、実践に努めること。

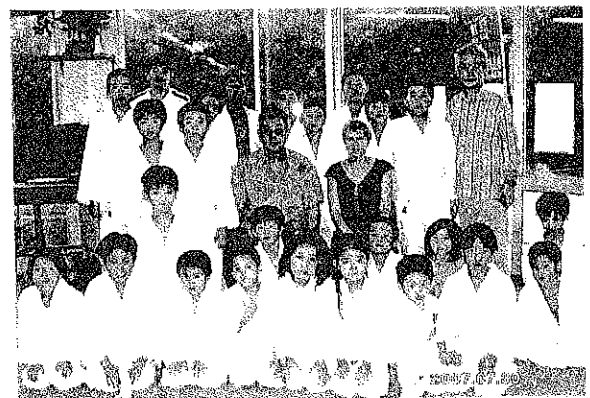
3 目的

- ① 相手を思いやり、礼儀正しい態度を育てる。
- ② 厳しい稽古の中で、強い意志と忍耐力を育てる。
- ③ 強く、たくましい身体を育てる。
- ④ 規則を守り、友達と協力し合う心を育てる。

4 現況

現在、館長林岩男(八段)、副館長林岩宏(四段)で、指導を行なっています。練習日が、月・水・金曜日の午後6時から7時半まで。小学校1年生から6年生までの男女の児童が、厳しくてまた楽しい稽古に励み、快い汗を流しています。

年間行事として組まれている県柔道会主催の各種柔道大会・県柔道整復師会主催の各種柔道大会・県スポーツ少年団主催の競技別交換大会などへの参加。その他年に数回の対外



試合や合同練習への参加も子供たちは、楽しみにしています。また、恒例行事として、夏休み中に修道館で、宿泊暑中稽古を行なっています。

各種大会の成績(2月～5月)

・鹿児島県柔道選手権大会

2月2日(土)鹿児島アリーナ武道場

1位 新名 一彦(初優勝)

2位 田代 竜二

3位 中原 史貴

3位 中原 大輔

5位 帖佐 大輔

・鹿児島県女子柔道選手権大会

2月2日(土)鹿児島アリーナ武道場

1位 吉元 佳代(初優勝)

2位 森 有希

3位 濱田 尚里

※ 男子は、4位。女子は、2位まで、3月の九州選手権大会(鹿児島)に出場する。

・県下中学校柔道新人大会

2月16日(土)鹿児島アリーナ武道場
団体戦

1位 伊敷中学校

2位 阿久根中学校

3位 中種子中学校

3位 川内中央中学校

男子個人戦

1位 堅山 将(阿久根中学校)

2位 渡辺 英貴(坊泊中学校)

女子個人戦

◇44kg級

1位 烏帽子美咲(榕城中学校)

2位 竹ノ内 玲(鹿屋東中学校)

◇48kg級

1位 木之下さつき(野田中学校)

2位 柿木田江梨(舞鶴中学校)

◇52kg級

1位 堀内 愛実(末吉中学校)

2位 富永望奈美(南之郷中学校)

◇57kg級

1位 榎谷 有里(帖佐中学校)

2位 日高 絢音(中種子中学校)

◇63kg級

1位 松原 美穂(中種子中学校)

2位 畠中 真幸(吹上中学校)

◇70kg級

1位 石橋 采子(松元中学校)

2位 吉村 静織(鹿屋東中学校)

◇70kg超級

1位 稲森 奈見(末吉中学校)

2位 田野田佳奈(吉野中学校)

・県下少年新人柔道大会

2月24日(日)鹿児島サブアリーナ
団体戦

1位 米倉柔道スポーツ少年団

2位 春山柔道スポーツ少年団

3位 南界柔道スポーツ少年団

3位 志布志柔道スポーツ少年団

・九州柔道選手権大会

3月9日(日)鹿児島サブアリーナ

1位 松崎 建司(福岡県警察)

2位 青山正次郎(福岡県警察)

3位 後小路裕朗(福岡県警察)

3位 谷口 徹(旭化成)

5位 塘内 将彦(旭化成)

・九州女子柔道選手権大会

3月9日(日)鹿児島サブアリーナ

1位 相原 千郷(日本体育大学)

2位 宝 寿栄(コマツ(株))

※ 男子は、5位。女子は、2位まで、4月29日の全日本選手権大会に出場する。

・県高等学校柔道競技大会

5月28日(水)・29日(木)

鹿児島アリーナ・メインアリーナ

男子団体戦

1位 甲陵高等学校(4連覇)

- 2位 鹿児島商業高等学校
- 3位 鹿児島工業高等学校
- 4位 鹿児島実業高等学校

男子個人戦

◇男子60kg級

- 1位 前田 隼哉 (鹿児島商業高等学校)
- 2位 藤山 成斗 (鹿児島情報高等学校)

◇男子66kg級

- 1位 大井 達矢 (鹿児島南高等学校)
- 2位 和田 勇也 (鹿児島商業高等学校)

◇男子73kg級

- 1位 池田宏次郎 (甲陵高等学校)
- 2位 内門 将 (甲陵高等学校)

◇男子81kg級

- 1位 矢田 友克 (甲陵高等学校)
- 2位 山田 泰裕 (甲陵高等学校)

◇男子90kg級

- 1位 岩下 達仁 (甲陵高等学校)
- 2位 末永 良太 (甲陵高等学校)

◇男子100kg級

- 1位 久保田大樹 (鹿児島工業高等学校)
- 2位 米山 大地 (鹿児島工業高等学校)

◇男子100kg 超級

- 1位 土屋 潤 (鹿児島商業高等学校)
- 2位 北園 拓也 (鹿児島実業高等学校)

女子団体戦

- 1位 鹿児島南高等学校 (10連覇)
- 2位 鳳凰高等学校
- 3位 出水中央高等学校
- 4位 中種子高等学校

女子個人戦

◇女子48kg級

- 1位 豎山 優 (鹿児島南高等学校)
- 2位 羽生優紀子 (鹿児島実業高等学校)

◇女子52kg級

- 1位 安達 莉穂 (鹿屋高等学校)
- 2位 川邊 未来 (出水中央高等学校)

◇女子57kg級

- 1位 富浜 綾香 (鹿児島南高等学校)
- 2位 大町田 光 (中種子高等学校)

◇女子63kg級

- 1位 東馬場とも子 (鹿児島南高等学校)
- 2位 水俣 潮里 (鳳凰高等学校)

◇女子70kg級

- 1位 小原 希実 (鳳凰高等学校)
- 2位 白澤 恵子 (鹿児島南高等学校)

◇女子78kg級

- 1位 濱田 尚里 (鹿児島南高等学校)
- 2位 上蘭 結 (鹿児島南高等学校)

◇女子78kg 超級

- 1位 吉野 光 (鹿児島南高等学校)
- 2位 岡村 桃子 (鳳凰高等学校)

主な行事予定 (6月～9月)

- 6月 7日 県ジュニア体重別選手権大会
- 6月15日 県下中学校柔道大会
- 6月21日 県下少年学年別柔道大会
- 6月28日 国体選手選考会 (少男, 少女)
- 7月12日 国体選手選考会 (成男, 成女)
- 7月21日 少年柔道指導者講習会
- 7月22日 県下中学校総体柔道～23日
- 8月31日 県少年学年別練成大会
- 9月21日 第62回県民体育大会 (川辺)

図書紹介「柔道一代 徳 三宝」

指宿英造著 南方新社 定価(1890円)
史上最強といわれた「徳 三宝」の波乱に富んだ生涯を甥である指宿英造氏が、その実像を描いた力作です。

この本は、平成元年に出版されましたが、今回、装丁を新たにして再出版されました。

「真実は、小説より奇なり」と申しますが、三宝の生涯は、凄まじいのひと言です。鹿児島二中(現甲南高等学校)の寄宿舎の火事からの脱出劇、納屋通りや西田橋での大乱闘、退学、上京してからの数々の武勇伝や名勝負。1日100本を超える乱取り稽古。そして、最後は、余りにも非業な死。

徳 三宝は、郷土の偉人として歴史資料館黎明館にスポーツ関係者では、唯一人紹介されています。

小・中学生の皆さんに座右の書として、是非読んで貰いたい本です。

【編集後記】

「県柔道会だより」の創刊から3年が経過し、4年目に入りました。今回から、「道場だより」を加え、内容の充実を図りました。これからもよろしくお願いします。(畑添)